

「カーボン・オフセット」のえほん

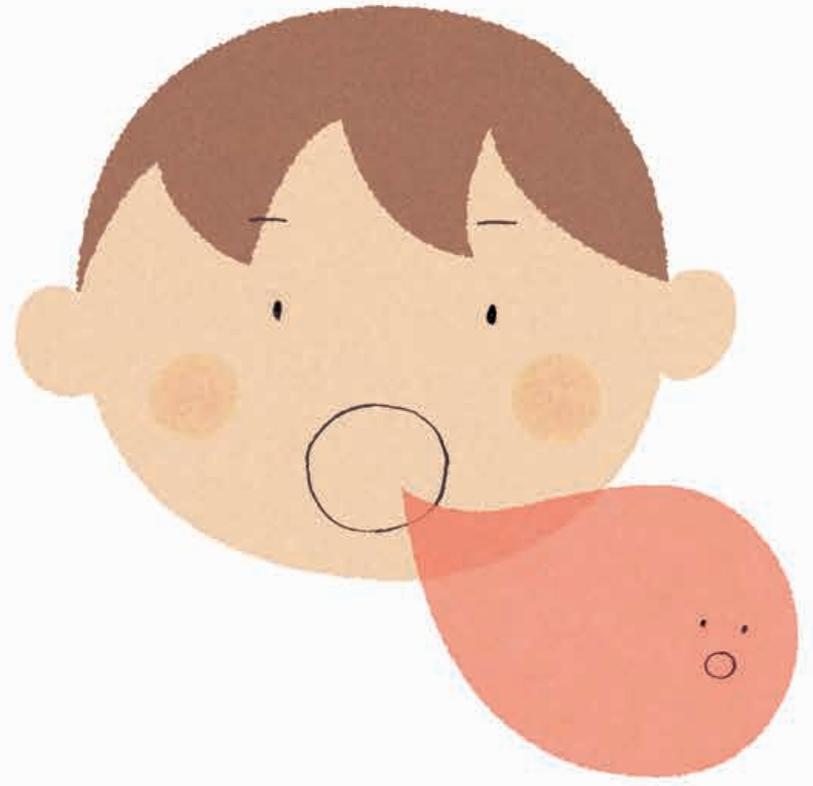
すーはあーの おはなし



すー



はあー



みんな みんな



ずっと ずっと むかしから



だれが すー はあー を
つくっているの？



え？ 木^き なんだ！ すごーい！

だから みんな

すー

はあ

できるんだね



あれあれ？

はあ-が いっぱい！



たいへん！

どうしよう？



そうだ！



こうすれば きっと

木 は げんき



ずっと ずっと

すーはあー



たいせつだね

大人の方々に

『地球温暖化』をくいとめよう…！

石油などの化石燃料の大量消費により、温室効果ガスであるCO₂などが放出され、地球温暖化が深刻化しています。

日本では、

平均気温が100年間で約1℃上がりました。

サクラの開花日が50年間で4.2日早くなりました。

カエデの紅葉が50年間で15日以上遅くなっています。

世界では、

海面の平均水位が、1993年からの10年間で3.1cm上がりました。

今後、平均気温が1.5～2.5℃以上上がると生物の20～30%は地球上から姿を消す、ブナ林の分布適地は気温が3.6℃上がると約90%減少する、と予測されています。

地球の温暖化が進むと、気候が変わり農業生産が不安定になり、米など農作物の収穫量が減る可能性があるといわれています。

私たちの暮らしにも影響がでてきています。

地球温暖化をくいとめるために、CO₂を減らす取組を、できることから今すぐ始めることが大切です。こどもも大人も、すべての人が…です。

出典：環境省地球温暖化防止国民運動ウェブサイト「地球温暖化って何？」より抜粋

どうしても減らないCO₂…

私たちは日々の暮らしの中で、こまめに電気を消したり、自転車や公共交通機関を利用するなど、CO₂を減らすことができます。

でも、どんなに頑張っても、どうしても減らせない量がでてきます。

そこで考えだされたのが、『カーボン・オフセット』。

どうしても減らせないCO₂を、他の誰かが減らした量で埋め合わせをしよう、という考え・仕組みです。

たとえば、こんなこと ～ドライフルーツの話～

ドライフルーツを作っているある会社では、CO₂を減らす取組として、海外から輸入したリンゴではなく地元のリンゴを使う、加工工場ではなるべく省エネ機器を使う、などを行っていました。

でも、私たちの手元に届くまでに、電気を使ったり、トラックを使ったりして、まだまだたくさんのCO₂を出しています。

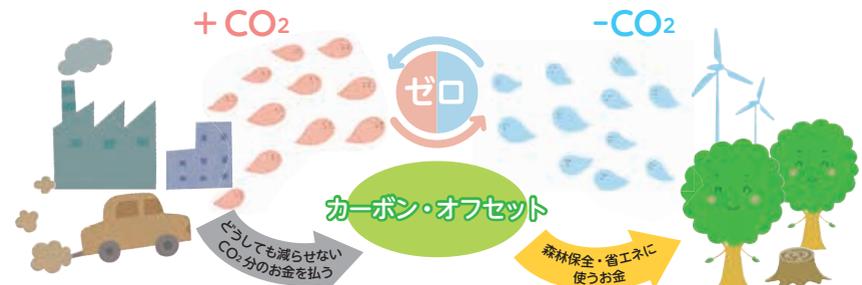
そこで、「カーボン・オフセット」を取り入れました。

どうしても減らすことのできないCO₂を吸収する「森」を守り育てる活動を支援することにし、ドライフルーツの値段に森を守る活動のための支援金を含めて、お客さまと一緒に取り組んでいます。

CO₂ゼロを目指しつなぐ 『カーボン・オフセット』

CO₂を出す側、吸収・削減する側をつなぎ、「+ゼロ」を目指すカーボン・オフセット。両者をつなぐ「ドライフルーツ」のような商品を『カーボン・オフセット商品』と呼んでいます。ドライフルーツの他にも、水や新聞、旅行などの商品があり、その販売価格の一部が、地域の森林保全・利用や省エネなどに寄付されます。

こういった商品を選ぶことで、CO₂を減らす取組を応援することができるんです。



カーボン・オフセットに取り組む

りんごとカーボン・オフセット

小林 登さん（小林りんご園）



ある日突然の電話がありました。「ドライフルーツをつくりませんか」。「…?」。「カーボン・オフセットをするドライフルーツをつくりたいんです」。農家は地球の温暖化を痛感しています。このままだとリンゴが作れなくなってしまうかもしれない。他人事ではない。なんとかしなければ…。そんなキモチを込めてつくった『ドライフルーツリンゴ』です。みなさんに美味しいリンゴを届けるための『カーボン・オフセット商品』です。

●小林りんご園

URL : <http://www.sas.janis.or.jp/~kobano/index.html>
農園で収穫したリンゴをドライフルーツにしてカーボン・オフセット商品として販売。長野県小海県有林の森林整備によるJ-VERクレジットを使用しています。



中学生がスキー場で…

佐々木好一郎さん
(株式会社長和町振興公社/ブランシュたかやまスキーリゾート企画・営業)

小中学生を対象に毎年行っているスキー教室で「環境教育」をしたいなって考えていたんです。雪山の森、動物の足あと、自然いっぱいのスキー場で、今の地球環境を伝えたい。そんな時に出会ったのが、カーボン・オフセット。到着したばかりの子どもたちにレクチャーします。「このスキー場は、みんながここに来る間に出されたCO₂を吸収してくれる森を守っているんだ」と。スキーを楽しむ子どもたちのアタマとココロに少しでも残ってほしいと願っています。



●ブランシュたかやまスキーリゾート

URL : <http://www.blanche-ski.com/>
昨年から、スキー教室に参加する生徒のスキー場までの移動で排出されるCO₂を、1人当たり5kgオフセット。合計20tのCO₂を長野県小海県有林の森林整備によるJ-VERクレジットを使用しています。



ていねいな山仕事をずっと…

大崎 正秀さん（東白川村森林組合 業務係 主任）

「なぜ ていねいかって？」それは、村のみんなが植えた木、大切な森だから。みんな顔見知りで仲良しだから。どこのおじいちゃん、ひいおじいちゃんが植えたかわかるんです。僕らは、ずっと昔の村の人々の、未来への思いあふれる森と暮らし続けるための仕事をしています。カーボン・オフセットは、増え続けるCO₂を吸収する森と人間をつなぐ方法です。そのことをていねいに伝え、森と子どもたちとの距離を近しくしたいと思っています。



●東白川村森林組合

URL : <http://www.50913.ne.jp/hinoki/>

東白川村のヒノキは「東濃ヒノキ」として有名。東白川村森林組合では、2571t-CO₂をJ-VERクレジット化しています。

森はみんなの味方だよっ

内木 篤志さん（加子母森林組合 代表理事組合長）
日下部信康さん（加子母森林組合 事務参事）

おいしい空気や水をつくる森。きちんと手入れがされている森は自然災害を防ぎ、立派な木材を生産します。でも日本の木は使われなくなったから、十分に手をかけられず森は荒れている。カーボン・オフセットは、そんな森を「生き返らせる」ために取り組みました。町の人、子どもたちに木を使ってほしい。オフセットに取り組ん



でほしい。30年、50年と木の成長には時間がかかるけれど、“今”手をかけることの大切さに気づいてほしいのです。

●加子母森林組合

URL : <http://www.fa-kashimo.jp/>

「伊勢神宮」の遷宮用の木材が生産される加子母の森。「神宮備林」として有名。加子母森林組合は約29600t-CO₂をJ-VERクレジット化しています。

バラは地球の贈りもの

友松 正さん (稲沢ばら)

生きているものはすべて呼吸をしています。植物は空気をキレイにし、私たちのいのちを守ってくれています。朝、おひさまが昇る時間にバラ園に行くと、バラはたかさんのCO₂を吸っています。バラの呼吸を感じます。初めはコスト削減のために、CO₂排出量の削減に取り組みましたが、地球のサイクルの一部として生かされている、という大切なことを気づかされました。



●稲沢ばら

バラ栽培の温室に電気ヒートポンプを導入し、削減したCO₂排出量を印刷会社などがオフセットに使用しています。



大切な想いを繋ぎたい

加藤 孝一さん (カルビー株式会社 カルネコ事業部 部長)

「日本の森と空気と水を守ります」。そんな想いでEVI事業を立ち上げました。森を守る人、社会貢献をしたい企業、環境をよくしたいという消費者の3者を結ぶプラットフォームです。カーボン・オフセットを促進し、森林保全・整備のための資金を生み出しています。また日本の森を守るために、日本の木材が日々の生活で使われるよう「森のめぐみのおとりよせ」という販売サイトを立ち上げました。みんなの想いがつながって、日本の豊かな森、水、空気が、あなたの大切な人、未来へと届くように願っています。



※ EVI : Eco Value Interchange の略。環境貢献を目的とした日本の森と水と空気を守るWEBプラットフォーム。

●カルネコ事業部

URL : <http://info.calneco.jp/index.html>

●EVIサイト URL : <https://www.evic.jp/evi/top.jsp>

●「森のめぐみのおとりよせ」サイト

URL : <https://www.evic.jp/woodluck/>

絵本をつくってくださった方のメッセージ

水野早穂子さん (イラストレーター)

「すー」と「はー」。

目に見えないけれど、私たちは彼らに生かされています。この絵本を読んでくれた子どもたち、そして大人たちが、ほんの少しでも、未来の世界を思いやる心をもってくれたら、と願っています。



鳥原 由美さん (デザイナー)

桜で寿ぎ、新緑に元気をもらい、紅葉に涙し、雪に耐える。私たちは、木々とともに美しい日本に生きています。この冊子から、そんな自然の美しさといのちの循環を、大人から子どもへと伝えてください。



さいごに

カーボン・オフセットの本来の意味は「CO₂排出量の埋め合わせ」です。日本では、どこでどのように埋め合わせ (CO₂削減) を行うかといった活動を応援する仕組みとして注目されています。ぜひ、地域で行われている環境保全活動に興味をもっていただき、カーボン・オフセットに参加していただきたいです。

株式会社 ウェイストボックス

未来の地球に暮らす“大切な人”に届くように。

CO₂が引き起こす問題を自分ごとに感じてほしいと、日々あたりまえにしている「呼吸」を題材に絵本をつくりました。自然の循環の中で人は生きています。そのことを少し意識して、日々の選択をし、暮らしをつくっていただけたら、とても嬉しいです。

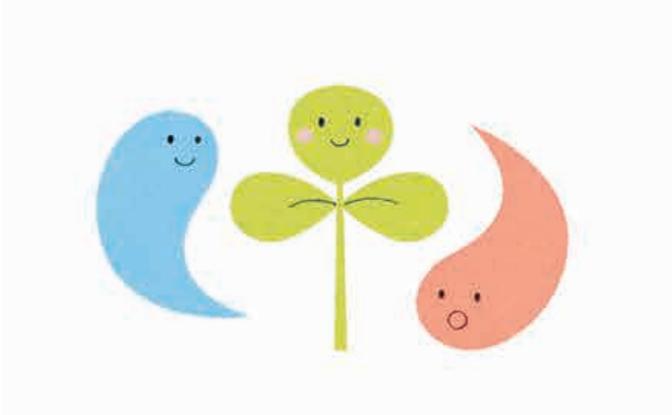
特定非営利活動法人 ボランティアネイバース

企画製作：株式会社 ウェイストボックス 鈴木修一郎 小川晶子
特定非営利活動法人 ボランティアネイバース 新海洋子 前田陽介
イラスト：水野早穂子
デザイン：有限会社 HIME 企画
印刷：株式会社 マルワ
協力：環境省中部環境パートナーシップオフィス

♥ Special Thanks

三輪 哲さん (株式会社 メルヘンハウス)
原田さとみさん (エシカル・ペネロープ株式会社)





絵本に込めた思い

「地球の温暖化がひどくなっている！」ニュースや新聞で毎日のように見かけます。なのに、ちっとも温暖化の原因であるCO₂は減っていません。そこで考えられたのが、「カーボン・オフセット」。CO₂を出している側とCO₂を減らしている（吸収している）側をつなげて、バランスを保とうという方法です。

「すーはあー」のお話は、ずっと昔から脈々と続いてきた、木によって循環しているO₂とCO₂のバランスを描きました。

人間の活動で増やしすぎたCO₂は、

- CO₂を吸収する木を育て使い、また育てるという循環を絶やさないようにする
- 省エネ製品やCO₂をあまり出さないモノを使うなどの行動をする

ことで減らすしかありません。

少し難しいけれど、この絵本を通して「大切なこと」を子どもたちに伝えたいと思っています。

●この冊子は平成25年度日本郵便の年賀寄付金の助成により制作しました



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

この絵本はエコ間伐紙を使用して、ベジタブルインクで印刷しています。

この絵本の制作に伴う環境負荷は、約800g-CO₂です。

中部産のJ-VERクレジットを活用してカーボン・オフセットしています。

(産業連関表2005年度による推計 部門191101 印刷・製版・製本)